

法政就業力通信

～今月のさんぽ道～

法政大学
「就業力を育てる3ステップシステム」
プロジェクト
<http://3step.hosei.ac.jp/>

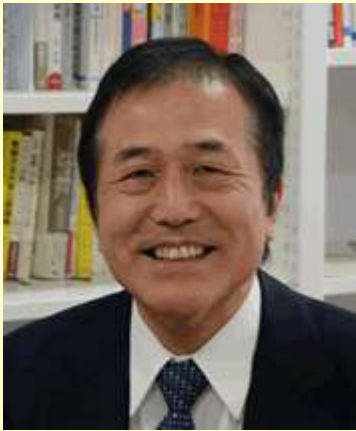
就業力を育てる3ステップシステム

就業力支援の裏側！

特任教員 有田 五郎（ありた ごろう）

仕組みを工夫する

本年度前期の授業が最終段階にあります。テキスト解説・グループワーク・DVD講座・ゲストスピーカー講演と多彩なプログラムで3コマ・合計500名の学生達に対して、「自分を知る」「現場を知る」が基本だと講義を進めてきました。それらの内容はこの就業力通信や3ステップブログでご紹介してきましたが、ここでは目に見えない仕組みの工夫を取り上げさせていただきます。



「自分の判断」で行動させる

最近、大学でのリベラルアーツが見直される流れを感じています。私は授業進行や成績基準の中に、真面目さを身に付ける、更には真面目さを評価する仕組みを取り入れました。まずは期初のオリエンテーションの中でこの授業の趣旨と約束事を確認します。具体的には出席点重視やリアクションペーパーの採点方法、マナーの徹底などとなります。学生は成績に直結するので、「ああ、こうした方が得だ」と行動に現わすことを意識する様になりました。

「活かし方」を意識させる

まず出席点ですがこれが成績の7割を占めます。毎週採点のリアクションペーパーでは自分の考えが書けている事が評価されます。1枚1枚手渡し、各自の提出を必須としています。ペーパーには数問の設問がありますが、授業後半でそれらを踏まえた更なる問い掛けを加えます。特に、その日の学びを今後はどう活かすか？を書かせて意識の向上と実践に結びつけるのです。学生達の中にはペーパーを受け取ったらすぐに解答を書く者、中には仲間に提出を託す者までいますが、彼らには点数が取れない仕組みとなっています。リアクションペーパーの内容が乏しいと、その態度の帰結が自分の成績として戻ってくる訳です

「やり方」を実感させる

グループワークを通じて他者と交わり、その考え方を知る。これがグループワーク実施による最大の効果です。それに加えて、グループ作りを通じて、自分から動くこと・声を掛けること・仲間以外の者と接することを強調しています。グループ作りにはまず全員一旦起立・指示した人数が集まった者だけが着席・立ったままの者には周りへの働き掛けを求めます。250名・固定椅子のクラスだと8割方が着席するまで、「ここで主体性を発揮して！」などとこちらも動き回って学生の集結を支援します。約5分位の戦い、その間に出来上がったグループにはワーク準備としてタイムキーパーの選任を指示しつつ、一緒に汗をかいて授業進行に努めているのが実態です。その日のテーマによって、グループの人数と組ませ方への気配りをするのも大切な工夫です。

ともすれば教える内容ばかりに目が行きがちですが、それを教える方法論を車の両輪として取組むべき、と考えて実行している現場を報告させていただきました。

略歴

70年 慶応義塾大学経済学部卒

70~06年 伊藤忠商事(株)勤務

06~11年 帝京大学

法政大学職員。

11年~ 法政大学教員



略歴 84年名古屋大学大学院卒。京都大学博士(経済学)。84～89年京都大学経済研究所助手、90～97年滋賀大学経済学部助教授・教授。97年～03年法政大学経営学部教授、04年～IM研究科教授。

講義に平気で遅刻する学生への対処

教授 藤村 博之 (ふじむら ひろゆき プロジェクトリーダー)

先日、ある学部で講義をしました。講義開始時刻に教室に座っていた学生は15人程度でした。それからバラバラと学生が姿を見せ、講義が終わる段階では30数人になっていました。最も遅れてきた学生は、講義開始から1時間も経っていました。

遅刻してくる学生たちは、「遅れて申し訳ない」というそぶりを見せることなく、席に着きました。その態度に腹が立つというよりも啞然としてしまいました。学生の本分は講義に出席して勉強することであるのに、それをおろそかにしている姿に大きな危機感を抱きました。

時間を守ることは社会生活を送っていく上での第一歩です。それができていない学生に対して、私たち教員は、もっと毅然とした態度で対処すべきだと思います。躰(しつけ)です。大学生になってまで躰ける必要があるのかという反発の声が聞こえてきそうですが、一人前の社会人に育てて卒業させるには、時間を守ることを大学で指導する必要があると感じました。



略歴 法政大学大学院経営学研究科キャリアデザイン学専攻(修士)卒業後、法政大学大学院政策創造研究科博士後期課程に進学。2011年3月、同博士課程中退。

キャリアにも「やめる」という選択肢があるように…

特任教員 白井 章詞 (しらい しょうじ)

先日、企業の役員の方から、「大学は、何のためにキャリア教育なんてやるんだ？」と問われました。聞けば、ある大学からキャリア科目にゲストとして呼ばれ、企業が求める人材像について語ってくれと依頼されたとか。聞いたこともない科目だったため、事前に授業見学へ行かれたそうです。すると、1年生を前に教員は「企業の採用試験では…、面接では…、〇〇力が問われている」、さらには「グループディスカッションを突破する秘訣」についても解説していたそうです。受講生が減り続けていることに、担当教員は学生の意識を問題視したそうですが、その役員からすれば当然の反応ではないか、とのことでした。大学教育のなかにキャリア科目の占める割合が増えるなか、改めてこれまでの取り組みを吟味し、ときには「やめる」という選択肢があっても良いのではないかと、とも思います。



略歴:日米ハイテク企業での営業・人事を経て人事コンサルタントとして独立。キャリアカウンセラー資格取得後は多くの大学でキャリア論の講師を務める。

ビデオ教材開発の第二段階

特任教員 鈴木 美伸 (すずき よしのぶ)

道具というのは、使い方によっていかようにも役に立ちますし、その逆もありえます。特にパソコンのような汎用性の高い製品などはなおさらで、ビデオ教材についても同じでしょう。例えば、私達の開発したビデオ教材は、大学の授業で教員が解説を加えながらの使用を想定しておりますが、そうした指導無しにビデオだけを視聴していると、制作意図や注意点が見過ごされてしまうことがあります。

だからこそ、道具(ビデオ教材)の使い方の研究や運用の試行錯誤が重要です。それはビデオ教材開発の第二段階であり、教員の腕の見せ所です。来月開催のワークショップでは、これまでの授業運用での学生の反応をお伝えし、受講者の方々のご期待とご質問を伺い、有意義な議論ができればと思います。道具は多くの人々にもまれて熟成するものですから。

◆ キャリアガイダンス第1回目が開催されました

オープンキャンパス初日に行われました、「高校生向けキャリアガイダンス」には、45名の参加者が集まりました。高校生のみなさんには初めて体験する90分授業でしたが、児美川キャリアデザイン学部長による楽しくテンポの良い講義に引き込まれて、あっという間だったようです。

受講後の感想には「知らない人とテーマについて話し合い、自分とはまた違う意見が聞けて楽しかった」「途中ゲームをはさんだり、いろいろと自分で考えたりと楽しく聞ける講義でした」「社会のことをある程度知っているつもりでしたが、知らないこと、今日初めて知ったことの方が多くことがわかり、とても勉強になりました」と、良い経験となったようです。

また、このプログラムには保護者だけではなく、他大の教員や塾講師の方も見学にみえました。まもなく第2回目を迎えます。

◆ 編集後記 :

先日小学校の盆踊り大会がありました。諸般の事情によりPTAの出店で「チョコバナナ」を売ることになりました。お母さん方に交じて「皮むき」「盛り付け」「チョコがけ」の3ステップシステムで売りさばきましたが、普段の仕事とはまったく違い、まさにインターンシップ感覚の貴重な体験でした。イメージ的には「焼きそば」や「たこ焼き」なんですけどね… < 事務局:平山 >

「就業力を育てる3ステップシステム」プロジェクト (事務局:学務部教育支援課)

〒102-8160 東京都千代田区富士見 2-17-1

TEL: 03-3264-9520 WEB: <http://3step.hosei.ac.jp/>

就業力を育てる**3ステップシステム**